

### Ma T君 (主将) : 「リトルの思い出と将来の夢」

まず始めに、今までお世話になったたくさんの方々、ありがとうございました。僕は二年生の冬頃に入団しました。みんなより遅く入団したので、チームの輪に入れるか心配でした。でも自分的には、仲良くやっていけたと思います。

一番の思い出は、北関東連盟学年別六年生大会(注:2014年9月)の準決勝、川口戦です。一回、二回と点を取られてしまい、三回を無失点でおさえ、その裏に八点を取り、一気に逆転しました。この八点はみんなであきらめず声を出して取った大切な点だと思います。そしてその後もみんな声を出して結果15対11で勝って関東大会出場も決まったけれど、最初は実感がわきませんでした。少したって関東大会に行けるんだ!と思い始めてすごくうれしかったことを覚えています。シニアリーグでもあきらめない、声を出すなどを続けていきたいです。

二番目は、内村コーチのノックです。最後まで残った人が鬼ノックというのがなぜか楽しかったです。見るのも楽しかったし、やるのも楽しかったです。

将来の夢は野球選手のピッチャーです。野球選手のピッチャーになるために練習の手を抜かず、部活もしっかりやっていきたいです。

シニア(リーグ)、高校野球と野球を続けると思うのでこれからも応援よろしく願います。今までありがとうございました。

### Ki S君 : 「新座リトルリーグの思い出と将来の夢」

まず橋本監督を始め、ママさん、コーチ、保護者のみなさんには、ぼくとうるさい母とインチキくさい父が大変お世話になりました。ぼくは、たくさんの人に恵まれて感謝の気持ちでいっぱいです。ぼくのリトルリーグでの思い出は、すべてが思い出なので、この原稿用紙には書ききれません。ですが、心に残っていることが二つあります。

一つ目は、インターミディエット全国大会です。初めてみんなと泊まりがけで試合に行ったからです。初めてリトルのみんなと二日間いっしょにいたときは、すごくうれしかったし、すごく楽しかったです。ぼくは、予選で何もできなかったけれど、みんなのおかげで(全国大会に)行くことができました。ありがとう。

二つ目は、関東大会(注:2014年11月開催)です。結果は負けてしまいましたが、あのとき打った先制タイムリーが今でも忘れられません。この関東大会はK(注:現6年生)がいたから行けたんだと思いました。ぼくたち中学1年生だけでは行けなかったかもしれません。だからK、ぼくたちの思い出をつくってくれてありがとう。

最後にぼくの夢は、プロ野球選手になることです。リトルで教わったことを忘れずに、シニアリーグでがんばっていきたいです。そのためにショートとサードでレギュラーをとれるように努力することです。みなさん、応援よろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

## Ka R君

ぼくは一年生の夏に入団しました。幼稚園の時はサッカーをやろうとしていましたが、お父さんやお兄ちゃんの野球を見て、「おもしろそうだな」と思ったし、プロ野球の試合を見て、「かっこいいな。僕もこんなふうになりたいな」と思い、すごい影響を受けたので野球を選び、将来の夢がプロ野球選手になりました。

入団した当時は、集中力がなく、キャッチボールをしている時に顔にボールが当たり、泣いて嫌になり、「やめたいな」と思いました。でも、そこをなんとかこらえてがんばりました。

マイナーチームに上がり、(ジュニアチームのティーボールから)硬式ボールに変わり、それと同時に動いているボールを打つということに変わり、ヒットを打つことが難しく、初めてスリーベースを打った時は嬉しかったです。

メジャーチームに上がり、練習ではホームランが打てるけど、試合では打てず、とてもくやしい思いをしました。それで、(試合で)ホームランを打った時にはすごく嬉しく、気持ち良かったことを覚えています。通算6本という結果で目標の10本は達成できなかったけれど、ホームランを打ってチームに貢献できて良かったと思えました。

6年間を通して心に残った大会は、インターミディエット大会(注:北関東連盟予選大会)です。なぜかという、(最終)試合には負けてしまったけれど、失点差で全国大会に出場できたからです。

6年生の中で一番頼りになった人はK(現6年生)です。Kがいなければ、全国大会に行けなかったなと思えました。

そしてお父さんお母さん、お父さんは送り迎えをしてくれてありがとう。お母さんは、朝早い中、いつもおいしいお弁当を作ってくれてありがとう。これからも迷惑をかけると思いますが、よろしくお願いします。

最後に橋本監督、ママさんはじめご父兄の皆さま、6年間ありがとうございました。これからも野球を続けていくので、応援をよろしくお願いします。

## Ku S君

僕がこの新座リトルリーグに入ったのは、(幼稚園)年中の春ぐらいでした。新座リトルリーグに入ったきっかけは、僕のお兄ちゃん二人が入っていたからです。

2才の頃から馬場グラウンドに通い、遊んでばかりで野球に興味がなかったけれど、見ているうちに段々とやりたくなりました。

最初の頃は全然ルールも分からないまま野球をやっていましたが、コーチたちがルールや野球の基本を教えてください、とても分かりやすかったので、すぐに分かるようになりました。また楽しい野球の中にも、あいさつ、礼儀にはとても厳しく指導してくださいました。Tスタンドで顔を残してボールを打つ練習の時は、ボールを置いている所からドラえもんが出てくるから良く見ておけと言われ、練習をしたことを覚えています。

マイナーチーム、メジャーチームに上がってからは、きつい練習やくやしかった試合、楽しかった合宿、いつも同じ仲間がいてくれて声をかけあって頑張ってくることができました。僕はこの仲間とでよかったです。ここまでくることができたのも、監督、コーチ、ママさんをはじめとするご父兄の皆さまのおかげです。これからも野球を頑張っていきますが、ケガをしない体づくりをして、シニアリーグでも頑張っていきます。

## I A君

まず始めに、橋本総監督、ママさん、内村監督、清野コーチ、松本コーチ、たくさんスタッフのみなさん、6年6ヶ月ありがとうございました。僕は、一年生の時に新座リトルリーグに入団しました。入団当時（注：ジュニアチーム時）、なかなかみんなと一緒にプレーができず、いつもネット裏に座っていた僕がこんなに野球が好きになれたのも、いつも声をかけてくださったママさん、光武コーチのおかげです。

僕は、このリトル生活で一番心に残ったことは、このチームで（インターミディエット）全国大会に出場できたことです。理由は、結果はグループリーグ戦で敗退して勝ち進められなかったけれど、チームにとってもとても良い経験ができたと思うからです。

あと、松本コーチ、ピッチャーとしていろいろ、「ため」のことやサイドスローでのリリースの位置などを厳しく指導していただき、ありがとうございました。内村監督、外野ノックのとき、左中間、右中間を厳しくノックしていただきありがとうございました。

最後にお母さん、いつも早起きしておいしいお弁当をありがとう。これからも野球を続けるので応援よろしく願いいたします。

## Mi D君：「将来の夢とリトルでの思い出」

橋本総監督、ママさん、内村監督、父兄の皆さん、ありがとうございました。

僕は小学校一年生の時から新座リトルリーグで野球を始めました。約6年間、友達にも恵まれ、楽しく野球をできました。ありがとうございました。

僕のジュニア（チーム）での思い出は、初めて関東大会に出たことです。

マイナー（チーム）での思い出は、初めて動いているボールを打ったことです。

メジャー（チーム）での思い出は、（インターミディエット）全国大会に出場したことです。

しかし、ケガをしてボールを投げられなかった時が悔しかったです。

僕は今、東久留米シニアで野球を続けています。今の目標は、レギュラーになり、試合に出ることです。そのために日々練習をしてがんばります。

最後に、僕は新座リトルリーグで野球ができて本当に良かったです。

これからも野球を続けていきますので、応援よろしく願いいたします。

## Se R君

まず始めに、橋本総監督、ママさん、小池会長、スタッフの皆様、保護者の方々、5年半の間ありがとうございました。

ぼくは1年生の終わりぐらいにリトルに入りました。はじめは、何も分からなくてとても不安でした。でもだんだん慣れてきて土日が楽しみになりました。マイナー(チーム)ではTボールから硬式オールにかわりました。いきなり硬いボールにかわって恐怖もありましたが、その反面、本当の野球になった感じがして楽しみもありました。

そしてメジャー(チーム)では、最上級生としてみんなのお手本になるようにしました。内村コーチのランニングやトレーニングはとてもきつくて野球に行きたくないなと思ったこともありましたが、ここでやめたらだめだと思い、がんばって行きました。行って良かったと思います。

メジャーではいろいろ思い出があります。まずは(インターミディエット)全国大会に出場できたことです。全国大会では強いチームがたくさんいました。2試合やってどちらか1試合は勝たなかったのですが、残念なことにどちらも勝つことができませんでした。まだまだ実力がないなと感じました。

次はリトルでの最後の大きい大会(注:全国選抜大会北関東連盟予選)です。ぼくは指をけががしてこの大会には出ることができませんでした。そのかわり、一生懸命声を出して応援しました。結果は負けてしまったけれど、この試合のおは絶対に忘れません。

ぼくは今、東練馬シニアで野球をやっています。レギュラーではないけれど、この新座リトルで教えてもらったことを忘れずにシニア(リーグ)やこれからの自分に活かして、がんばっていきましょうと思います。

最後にお父さん、お母さん、今までぼくのためにいろいろなことをしてくれたり、時間を費やしてくれたりしてありがとう。これからもがんばるのでよろしくお願いします。

今まで本当にありがとうございました。とても楽しいリトル生活でした。

## E K君

ぼくがこのリトルに入団したのは四年生のゴールデンウィーク明けでした。

始めは何もできなくて、キャッチボールやバッティングなどがぜんぜんできませんでした。けれど、たくさんのコーチの支えのもと、ここまで成長することができました。コーチの方々には本当に感謝しています。

また、朝早くお弁当をつくってくれたお母さん、このリトルで生活するためのお金を稼いでくれたお父さん、見えない所でいろいろなことをしてくださったスタッフの方々、この人たちがいなかったら、ぼくはリトル生活を送ることができなかったので感謝しています。

このリトルで印象に残っている試合は、6年生大会(注:2014年秋)の準決勝、対川

口戦の試合です。この試合は、勝てば「関東大会」に出場できる試合でした。しかし、一、二回に大量失点をしてしまい、ぼくは正直「勝てるかなこの試合」と思っていました。けれど、二回裏に打線が爆発して、一番から九番まで全員がヒットを打ち、ベンチの人たち全員が盛り上げてチームは勢いにのり、一回から六回まで流れを切らさずにかつことができました。この試合は一生忘れません。

この新座リトルで学んだことはたくさんあります。このことを忘れずにシニア（リーグ）でもがんばっていきたいです。

### N A君：「リトルの思い出」

まず始めに、小池会長、橋本総監督、ママさん、コーチの方々、お父さん、お母さん、今までありがとうございました。

ぼくは、四年生の冬にリトルに入りました。入ったときは、内村監督にお世話になりました。内村監督には道具の大切さなどを教えていただきました。メジャー（チーム）に上がってからは猪狩監督にお世話になりました。猪狩監督からはフルスイングの大切さを教えていただきました。

リトルに入ってから思い出は関根杯（注；2014年4月）の優勝などがありますが、一番の思い出は今年（注：2015年5月）に行った（インターミディエット）全国大会でタイムリー（ヒット）を打ったことです。それからは自信がついて、少し打てるようになりました。これからも、あのときのことを思い出し、自信を持ってバッターボックスに入るようにしたいです。

ぼくは今、田無シニアですが、まずは試合に出場できるようにがんばりたいです。六年生も入ってくるので、負けないようにがんばりたいです。半年ちょっとたてば（シニアで）最上級生になるので関東大会に出場できるようがんばりたいです。

最後になりますが、小池会長、橋本総監督、ママさん。コーチの方々、今まで本当にありがとうございました。

W Y君：「新座リトル」

まず、小池会長を始め、橋本総監督、ママさん、コーチ、スタッフの皆様、このような卒団式を開いていただき、ありがとうございます。そして、今までありがとうございました。

僕は、五年生の11月と、この学年では最後に入団しました。それまでは地元の軟式野球チームで野球をやっていました。新座リトルに入団して硬式になるとボールのはね方も違うし、ピッチャーマウンドからホームベースなどの距離も違うし、色々と違う所が多くてとまどいました。でも練習を重ねるうちに硬式にも慣れて、六年生になると試合にも出場できるようになってうれしかったです。

新座リトルでは思い出に残ることがいっぱいありました。僕は最初で最後の合宿や関東大会や土日の練習など辛かったけれど、とても自分のためになりました。

一番思い出に残っているのは、(インターミディエット)全国大会です。結果は(リーグ戦)2試合とも負けてしまいました。僕自身は、2試合目の最後のバッターで一打逆転勝ちという場面でしたが、凡打に倒れてチームは負けてしまいました。あの時はものすごく悔しかったです。ですが、これも良い経験になりました。

将来の夢は、甲子園に行き、プロ野球に入って活躍して、結果的にはメジャーリーガーになって活躍することです。その目標に向かって頑張りたいと思います。

お父さん、お母さん、今までありがとうございました。そして、これからも色々迷惑をかけるかもしれませんが、よろしくお願いします。